

令和5年度第1回千葉市病院運営委員会議事録

1 日 時 令和5年10月25日（水）午後7時から午後7時35分まで

2 場 所 千葉中央コミュニティセンター8階 千鳥・海鷗

3 出席者

（1）委 員 斎藤博明委員（委員長）、浅井隆二委員、斉藤浩司委員、
日向章太郎委員、寺口恵子委員、阿部克巳委員、森嶋友一委員、
宮田昭宏委員、藤久保尚平委員、西田陽子委員

（2）事務局 山本病院事業管理者、佐藤次長

〔病院局 経営企画課・管理課〕

西野経営企画課長、渡辺病院整備室長、芝木経営企画課主査
鈴木管理課長、川村人事・定数担当課長、石川管理課長補佐

〔病院局 市立青葉病院〕

六角院長、池内事務長、金医事室長

〔病院局 市立海浜病院〕

吉岡院長、鈴木事務長、阿部医事室長

〔保健福祉局 医療衛生部〕

南医療衛生部長

（3）傍聴者 0名

4 議 事

（1）令和4年度決算の状況等について（令和4年度決算報告、本年度経営状況、今後の取組み）

（2）その他

5 議事の概要

（1）議事（1）「令和4年度決算の状況等について（令和4年度決算報告、本年度経営状況、今後の取組み）」事務局から説明。

【質疑応答】

＜阿部委員＞

両病院とも医業収益に対して医業費用が大きい印象がある。市立病院は公の機関としての存在意義があることから公的な負担があることは理解できるが、一方で税金の負担によって経営されていることから、医業収支をより改善していくべきだと考える。医業収支に関する目標についてお聞きしたい。

＜西野経営企画課長＞

公的病院の運営においては、不採算の医療分野については税金による負担を受け運営している。「資料3」に記載のとおり、千葉市の場合、費用全体に占める不採算医療等にかかる経費の割合は4割ほどであり、この経費に対し、国の基準に基づき税金により負担している。そのため、減密には赤字を補填するためのものではないが、いず

れにせよ、医業収支を改善させることによって全体の収支が良くなっていくことから、千葉市立病院改革プランでは医業収支について目標値を設定している。将来的に具体的な数値としてあるべき姿があり、そこへ向かって収支を改善していくという目標ではなく、病院現場において少しずつでも改善に向けた努力をしていこうとするものであり、努力をすれば現実に達成可能な目標を設定している。

<森嶋委員>

病院の収支は経常収支というより、補助金を除いた医業収支で判断されるのが一般的だと考え、国立病院では医業収支を黒字にすることを目標としている。

千葉市の医業収支の赤字は大きいという印象を受けた。両病院ともアクティビティが高く、ここ数年は良い数値を出しているが、令和3年度と令和4年度を比べると、5億円ほど医業収支が悪化している。この要因についてどう考えているのか。

<西野経営企画課長>

医業収支の悪化の要因は、光熱費の影響が大きいと考えている。令和4年度と令和3年度を比べると、光熱費が約2億円増えている。その他、国の施策による処遇改善や人事委員会勧告に伴う給与改定による給与費の増が影響している。これらはコントロールすることが難しい経費であるため、例えば診療材料や委託費等の経費削減に努めることで収支を改善していきたい。

<吉岡海浜病院院長>

「資料2」に記載のとおり、海浜病院の令和4年度の入院収益について、令和3年度と比較し、新生児科で約3億円の減となっている。これは看護師不足によりGCUを閉鎖していたことが大きく影響している。

<寺口委員>

人件費が増となっているものの、一方で看護師が不足しているということは、看護師以外の人件費が増えているということか。

令和4年度はコロナの影響がまだあったとはいえ、患者数が少しずつ戻ってきているのではないかと考えていた。診療単価が上がったものの、患者数に関しては令和5年度以降は更に増やしていく方策をとらないと赤字が増えていくと考えるが、どう考えるか。

<鈴木管理課長>

職員数の増のほか、定期昇給があったことから人件費が増えている。コロナが流行した令和3年度に看護師の退職者が多く採用が追い付かなかったことから看護師不足となった。今年度は採用を増やしたためGCUを再開している。

<西野経営企画課長>

入院延べ患者数については、コロナ前の令和元年度まで戻すことを目指している。「資料1」の6ページに記載のとおり、青葉病院については、令和2年度から令和3年度の伸びに比べ、令和4年度は伸び悩んでおり、令和元年の数値には戻りきれてい

ない。ベッドコントロールの工夫や地域連携の強化により患者数の確保に努めていきたい。

海浜病院についてはR S ウイルス感染症による年度毎の振れ幅が大きく、令和3年度の患者数が多かったため、その反動で令和4年度に低くなっている。いかに安定的に患者数を確保していくかについては課題として認識としている。集患や診療科の充実をアピールすることで患者数を確保していきたい。

< 斎藤委員長 >

患者さん自身が医療を控えていることも要因にあるのではないか。コロナ禍で病院に行けない期間が長かったため、患者さんもそれに慣れてしまい、コロナ以前のように病院にかからなくなっているのではないかと、診療所で実感している。病院の方でもそうなのではないだろうか。

< 六角青葉病院院長 >

青葉病院において、令和3年度と比較し、令和4年度の入院患者が減っている要因として、精神科の影響が大きい。医師の派遣の問題で成人精神科の診療縮小をしていることが影響している。医師の確保に向けて活動しているので、来年度以降、精神科の患者数を増やしていきたいと考えている。

(2) 議事 (2) その他
特になし

以 上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課
TEL 043-245-5744